

エゾアメイロオオアブラムシ

アカエゾマツの低木の細枝や苗木の幹につく茶色のアブラムシ。最大長約3.5～4mm。

街路樹などにしばしばみられる。



1. 雌成虫（中央のやや右下）と幼虫。2000/6/30.

興部町，街路樹のアカエゾマツ低木。

【学名】 *Cinara pilicornis*

【分類】 カメムシ目（Hemiptera），アブラムシ科（Aphididae）

【分布】 北海道；北半球に広く分布。

【生態】

宿主：トウヒ属（アカエゾマツなど）。

アカエゾマツの苗木の幹や若い木の細枝に寄生し，春から秋まで吸汁加害を続ける。新梢が伸びると，そこに移って加害する。年間世代数や越冬態は不明。

アリ類が訪れる。加害部位が土で覆われることはないようである。

【被害】

ヨーロッパではトウヒ属の重要害虫（特にクリスマスツリーの）とされ，多発すると煤病を併発，葉が黄変したり，新梢が湾曲するといわれている。

北海道では被害記録はないが，街路樹のアカエゾマツに普通にみられる。

【文献】

1956. 井上元則. 北海道・東北地方の針葉樹に寄生するアブラムシ. 林業試験場北海道支場業務報告，特別報告，5：204-238. (形態，生態.)

1969. Inouye, M. Revision of the conifer aphid fauna of Japan (Homoptera, Lachnidae). 林業試験場研究報告，228：57-

102. (分類, 形態, 生態.)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

エゾアメイロオオアブラムシ abura/ezoame/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/2/7.
musi.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.